

設立から2年経ちました

私たちの横浜日独協会は、2010年10月16日シュタンツェル・ドイツ大使や林横浜市長はじめ関係者皆様の熱心なご支援を頂いて、横浜・都筑区の独逸学園で呱呱の声を上げました。

日独修好150周年事業の開幕式が行われた同日に同じ場所で、大使ご夫妻や各地の日独協会幹部ご臨席のもと設立されて以来、月例講演会、見学会やチャリティーコンサート等を通じて会員の輪は広がり、現在個人140人、法人6社の会員を数えるに至りました。これも横浜市、ドイツ大使館の関係者や会員の皆様のご協力・ご理解の賜物で深く感謝申し上げます。

2012年の特別な動き

昨年の月例会は、機関紙“Der Hafen”で詳しく報じられていますが、特筆すべき出来事がありました。

- ① 林横浜市長が当協会の特別顧問にご就任(2月)
- ② 全国日独協会連合会の年次総会が初めて横浜で開催。林市長が歓迎挨拶(4月、ナビオス横浜)
- ③ ノーベル化学賞受賞の根岸英一博士講演会を後援(5月、横浜開港記念館)
- ④ フランクフルト市ペトラ・ロート市長講演会と懇親会を共催(5月、横浜)
- ⑤ テレビ神奈川開局40周年記念番組「環境先進国ドイツに学ぼう」の企画・現地取材・座談会出演に協力(2月より企画、6月現地取材、9月放映)
- ⑥ フランクフルト独日協会と協力協定に調印(7月、フランクフルト市庁舎)
- ⑦ フランクフルト市フェルトマン新市長の親書を林横浜市長に手交(7月、横浜市長室)
- ⑧ 横浜市経済局・政策局国際政策室と日独中小企業協力で会合(6月、9月、11月、横浜市役所)
- ⑨ 東日本被災地支援のチャリティーコンサートを主催(11月、大倉山記念館)
- ⑩ 独逸学園フェヒナー新学園長と今後の日独児童・生徒文化交流方針で合意(12月、独逸学園)

市民団体として横浜市の発展に協力

上記のフランクフルト独日協会との協力協定締結は、今後の活動を展望する上で重要な意味を持っています。なぜかといいますと、横浜市はフランクフルト市と2011年に都市提携協定を結び、両都市間で

- (1) 経済の活性化(特に市内中小企業の海外ビジネス支援、観光での相互協力)
- (2) 地球温暖化対策(先進施策やノーハウの交換)
- (3) 文化・芸術の交流と国際都市としての価値創造での協力

を目指して固く手を結び、林横浜市長のリーダーシップのもとで力強く歩み始めました。この二都市間の協力が実現すれば、われわれが住む横浜は必ず発展するでしょう。われわれ市民団体も、市の目標を理解し協力して、民間で出来る事はお手伝いする方針を理事会で話し合い、フランクフルト独日協会のご同意を得て7月2日フランクフルト市で調印に至ったのです。

しかし、調印しただけではあまり意味がありません。現在その手始めに、横浜経済活性化策の最大テーマである中小企業の活性化に向けて日独技術交流・市場情報交換などを横浜市のご指導を得ながら推進しようとしています。来年は更に、両市児童・生徒の交流のお手伝いも考えています。

なぜ、今ドイツなのか？

なぜドイツとの交流が大切なのでしょう？

私が半世紀にわたるドイツとの交流を通じて感じる事は、いまや欧州連合（EU）の中核であるドイツとアジアの先進国日本とが、価値観を共有して150年に及ぶ世界的にまれな友好関係を維持していることが日本にとって計り知れない大きな意味を持っているという事です。

昔から日本はドイツから多くを学んできましたが、今でも科学技術（例えば代替エネルギー）や政治制度（例えば参議院のあり方、憲法問題）などで、まだまだ学ぶべきことが沢山あります。

今年 2013 年は、独仏協力条約（エリーゼ条約）締結 50 周年に当たります。何百年も領土や資源を争いあい、大量殺戮を繰り返してきた独仏両国が、過去の怨念を捨てて固く手を握ってから半世紀が過ぎ、いまや EU を牽引しています。アジアでも日本、中国、韓国は、これを機会にエリーゼ条約の精神と手法を学ぶべき時を迎えていると思います。

今年も会員の皆様と手を携えて、明るく楽しく前向きに会合を重ね、国際都市横浜に相応しい活動を進めてまいりましょう。

Viel Schoenes und Gutes fuer das neue Jahr !

横浜日独協会会長 早瀬 勇